

女1万5995人。

(足立篤史)

女性技術者の現状 課題、解決法考える

地域産学官合同セミナー

企業の競争力や活力に欠かせない技術者に多様な人材の育成を図ろうと、日本技術士会中国本部は24日、鳥取市のとりぎん文化会館で「第44回地域産学官と技術士との合同セミナー」を開いた。オンラインを含む参加者約130人が女性技術者の現状や課題、解決法などについて考えた。

の岸本辰雄が明大創立者の一人であることや、中田が鳥取とゆかりが深いことから「鳥取は明大の聖地と言われている」と強調。1936年から女性も司法試験が受験できるようになり、「38年に明大専門部女子部を卒業した中田、三淵、久米愛の3人が女性初の合格者になった」と説明した。パネル展やギャラリートークは、中田を顕彰するイベントとして明大などが開催。24、25両日、講演会や座談会のほか、明大マンドリン倶楽部の演奏会も行われた。

(岡野耕次)

あいさつをする福田本部長
＝24日、鳥取市のとりぎん文化会館



多様性と公平性、包摂性を示す英単語の頭文字をつなげた概念「DE&I」をテーマに開催。同本部の福田直三本部長が、専門家が持つ知識「専門知」を、多様な知識を集めて新たな価値を創出する「総合知」につなぐ必要があると指摘した上で「技術士会がその役割を発揮する位置づけにある。DE&Iはまさに総合知を発揮する課題だ」とあいさつした。

県や県内企業の担当者らが講師として登壇し、元鳥取県職員の県産業技術センターの高橋紀子理事長は、県庁に入庁したところは男性社会で子育てに苦労したことなどを紹介した上で「決定的場に女性がいることはプラスになる」と呼びかけた。

(田子誉樹)